

(別紙様式2)

普及指導員調査研究報告書

所属名：農林総合技術センター技術指導室

担当者名：畑中 猛

課題名	⑦-2 水稻防除暦のいもち病防除剤と改善について
1 調査研究チームの構成	畑中 猛・尾本芳昭
2 課題の目的	<p>オリサストロビン剤（商品名；嵐）は、イネいもち病に対して長期残効があり、紋枯病にも有効であることから使用率が増加していた。</p> <p>嵐剤を使用したほ場で葉いもちが発生したことから、検体を採取し、PCR検定を実施した結果、遺伝的に変異が見られる異種株であり、耐性菌であることが判明した。また、その後の調査で耐性菌が県内に広く分布していることがわかり、また、ストロビルリン系（QoI剤）薬剤の他の薬剤についても耐性があることが分かったことからストロビルリン系（QoI剤）薬剤について使用中止することとなった。</p> <p>ストロビルリン系（QoI剤）については、水稻では1回のみを使用するように指導してきたが、広く耐性菌が発生していることから、水稻防除暦の問題点を検討し、今後の耐性菌抵抗性の発生の低減を図る。</p>
3 調査研究期間	平成24年度
4 調査研究の対象地域・場所	県下全域
5 調査研究方法の概要	<p>(1) 稲作防除暦 県内の12JAの15の稲作防除暦を入手し、いもち病に適用のある農薬について、どういう体系がありどのような薬剤が使用されているか確認し、どういう表示をしているか確認した。</p>
6 結果の概要、成果（または中間報告）	<p>(1) いもち病薬剤防除の分類</p> <p>いもち病防除薬剤について、箱処理剤、基幹防除粉剤、基幹防除液剤、基幹防除粒剤基幹防除（無人ヘリ）、補完防除剤に分類されており、ストロビルリン系薬剤がなかったのは2JAだけであった。</p> <p>ア 箱処理剤</p> <p>箱処理剤のいもち病薬剤成分は、オリサストロビン（ストロビルリン系）、トリシクラゾール（メラニン生合成阻害）、プロベナゾール（抵抗性誘導）、チアニジル（抵抗性誘導）の4剤であった。</p> <p>イ 基幹防除粉剤</p> <p>基幹防除粉剤のいもち病薬剤成分は、フラサイド（メラニン生合成阻害）、トリシクラゾール（メラニン生合成阻害）、フェリムゾン・フラサイド（その他・メラニン生合成阻害）の3剤（4成分）であった。</p> <p>ウ 基幹防除液剤</p> <p>基幹防除液剤のいもち病薬剤成分は、フラサイド（メラニン生合成阻害）、トリシクラゾール（メラニン生合成阻害）、フェリムゾン・フラサイド（その他・メラニン生合成阻害）の3剤（4成分）であった。</p>

エ 基幹防除粒剤

基幹防除粒剤のいもち病薬剤成分は、オリサストロビン（ストロビルリン系）、メトミノストロビン（ストロビルリン系）、プロベナゾール（抵抗性誘導）、ピロキロン（メラニン生合成阻害剤）、イソプロチオラン（その他）の5剤であった。

オ 基幹防除剤（無人ヘリ）

基幹防除剤（無人ヘリ）のいもち病薬剤成分は、トリシクラゾール（メラニン生合成阻害）、フェリムゾン・フラサイド（その他・メラニン生合成阻害）の2剤（3成分）であった。

カ 補完防除剤

補完防除剤のいもち病薬剤成分は、メトミノストロビン（ストロビルリン系）、トリシクラゾール（メラニン生合成阻害）、プロベナゾール（抵抗性誘導）、フェリムゾン・フラサイド（その他・メラニン生合成阻害）の4剤（5成分）であった。

(2) 成分名

完全に成分表示があるものはなく、2JAで一部分の成分表示があった。

(3) 系統名

系統名の表示は、すべてなかった。

(4) 注意書き

ストロビルリン系薬剤の連用を避けるような注意書きがあったのは、1JAのみであった。

7 今後の問題点

- (1) ストロビルリン系薬剤の連用を避けるような注意書きがあったのは少なく、ストロビルリン系薬剤の連用があったと考えられた。
- (2) 防除暦に成分名、系統名の表示がほとんどなく、薬剤が列挙されているものが多いため、同一薬剤、同一系統の連用を防げないと考えられた。
- (3) いもち病のストロビルリン系薬剤での耐性菌が発生したため、同系統の薬剤の使用を中止したため、使用できる薬剤が減少した。

8 普及活動上の留意点

- (1) 防除暦に成分名、系統名の表示がほとんどなく、薬剤が列挙されているものが多いことから防除体系の例を表示する。
- (2) 箱施用剤は予防剤として抵抗性誘導剤、散布剤は治療効果が期待できるメラニン生合成阻害剤等の体系を提示する。
- (3) JA等関係者に耐性菌発生防止に対して啓発を図る。